



2015年10月21日(水)

関西ペイント(株)大阪本社にて開催した  
ヨザン弥江子のデザインペイント基礎講座  
—— 「スタンピング」① ——  
についてレポートいたします。

- ・講師：(株)フォーアーツデザイン  
代表取締役 アートディレクター ヨザン弥江子

2016年最初のセミナーレポートは、デザインペイントの第一人者ヨザン弥江子さんを講師にお迎えして、大阪で2回にわたって実施した「スタンピング」のワークショップです。これは以前開催した「ステンシル」に続くものです。今回は、P X I サイトのコラム「#003」でヨザン弥江子さんの執筆によりご紹介している「スタンピング」によるデザインペイントに初チャレンジしていただきました。次回の「スタンピング」②のレポートと併せてお楽しみください。



まずはヨザンさんから皆さんへ、スタンピングについての心構えについてです。

「日本人の感性には、きれいに押せなかったり、少しでもかすれたりすると、それだけで嫌になってしまうところがありますが、スタンプはきれいに押せないものです。印鑑もそうですね。きちんと押したつもりでもどこか透けていたり、力強く押すとベタッリ付いてしまったり…。でも、透けたところから下地の色が出てくるので、それはそれで風合いになります。そういうところを逆に楽しむぐらいのゆとりのある気持ちで始めていただきたいと思います」  
ステンシルの時のようにあらかじめ平行線を書き込み、正確に位置を決めてから押していく方法もあるそうですが、今回は「とりあえず押してみる」「自分のものにする」といったところを目標に楽しんでくださいと話されていました。



「それでは前に来てサンプルを見てください」というヨザンさんの呼びかけに応じて、ヨザンさんを囲んでいろいろな手法についてお話を伺いました。(サンプルというのは、コラムでご紹介している作品です)スタンピングの手法には「色を少し違って表現するもの」「ツヤを違って表現するもの」「下地を工夫して表現するもの」などいろいろあり、そこに個性が加わることでさらにスタイルが広がっていくそうです。また、下地とスタンプの色を同系色でまとめればシックな印象に、補色を使えばハッキリした仕上がりになるなど、色との組み合わせでもさまざまなバリエーションが生まれます。

同じ型を使っても全く同じにはならない手作り感がスタンプの良さであり、用途に応じて使い分けてほしいとヨザンさん。「スタンプは何を目標に壁をペイントしたいかにつけるので、技法というよりどんな雰囲気を作りたいかで進めればいいと思います」とも仰っていました。今回は「スタンプングに慣れる」ということで、普通紙にたくさんスタンプの練習をしたあと、下地を塗った50cm角の壁紙に思い思いのイメージでスタンプングし、作品としてお持ち帰りいただくという流れです。最初は下準備として仕上げ用の壁紙に下地を塗っていきます。ハケで塗ったものとローラーで塗ったものの2種類を作り、仕上がりの違いを確認します。柔らかい表現にしたいときは、塗りムラが出やすいハケの方がおすすめです。



使用する塗料は、水性内装塗料「P X I's」から下地用3色とスタンプ用9色をご用意しました。P X I 会員限定でカンパピオのネットショップからしかご購入いただけないので、初めて実物を見られた方もいらっしゃるようですが、インテリアペイント用に厳選したきれいな発色と豊富なカラーバリエーションが特長の塗料です。スタンプングにも最適な塗料ですので、ぜひ「P X I's」のサイトもご確認ください。

さて、いくつかある柄の中から押してみたいスタンプを選び、いよいよスタンプングのスタートです。ヨザンさんからのアドバイスを聞きながら、皆さん夢中で作業されている様子が印象的でした。「塗料は1回塗るのに必要な分量だけパレットなどに取り出し、水を加えてクリーミーになるよう均一に混ぜます。スタンプに色を乗せるときはギュウギュウではなくやさしく、ファンデーションやチークを塗るような感じです。ちょっとしたかすれなどを表現する場合はハケの方がキレイに出ます。ハケをポンと置き、押しつけずにのの字を書くようなイメージでやってください」



「私は必ずやる前にウォーミングアップをします。未だにいきなり押しはしません。何度も押してみるうちに、どうもこの色がかすれるとか、塗料を少なくつけてしまう部分があるな、とかが分かってきます。そういう自分の手の癖を考えながら、押しってください」など、実際に数々の経験をされているプロだからこそ知るコツや技術、様々なアイデアがお話のあちらこちらに散りばめられていてとても参考になります。

皆さん非常に熱心に、そして楽しそうに作業をされるうち、予定の2時間はあっという間に過ぎて、最後は皆さんの作品を並べて講評会です。「縦横がハッキリしているスタンプ柄を使って、とりあえず規則的になり過ぎないようにやってみました。最初はどうしても斜めになっていましたが練習していくうちに真っ直ぐ押せるようになりました」「ヨーロピアン調のスタンプ柄だったのでレトロ感を出したくて、かすれ具合を何回か押して作りました」「パレットの中で塗料をあまり混ぜ過ぎないようにして押してみました。

こういうことができるんだとか、やっているうちに楽しくなってきた、作品にも愛着が湧いてきました」と参加者の皆さん。それぞれが思い思いのイメージでスタンプした作品は、どれもすぐに実践で使えそうな出来映えです。また、自分なりの工夫やアイデアを加えてオリジナリティ豊かに仕上げてもらったことにも大変、感心しました。



「今回はまだプロログですがけれども、ワークショップの本来の意味、私が理想としているものは、ここで作ったものが仕事に使えるようになることです。例えば、スタンプのデザインの中にアルファベットを入れて、お子さんのお部屋の扉にポンと押してあげるとか、いっぱい方法はあると思います。



仕事のためのリファレンスを作ってそれを持って今度は営業へ行き、プロジェクトを得るといのがプロフェッショナルなワークショップだと思うので、私はそういうふう成長させていけたらいいなと思っています。同じ型、限られた色でもこんなに違うものができて、それだけ個性がある。ペイントのおもしろさは個性がちゃんと出ることです。誰とも同じものがない。そういうところができるようになるワークショップを目指しています」とヨザンさん。

今回のワークショップは、参加された皆さんも実際に作業してみる楽しさに加えて、いろいろな可能性を発見していただけたのではないのでしょうか。引き続いて次回の『デザインペイント基礎講座「スタンプング」②』のレポートもご期待ください。

今後ともP X Iではセミナーやワークショップを発展させて、皆さんにお役立ていただければと思っております。たくさんのご参加をお待ちしています。